

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K01094

研究課題名(和文)カリキュラムマネジメントの基礎を育成するための教員養成段階のカリキュラム等の開発

研究課題名(英文) Development of the Curriculum and Teaching Materials in order for University Students of Teacher Training Course to obtain ability of the Curriculum Management

研究代表者

吉富 芳正 (YOSHITOMI, YOSHIMASA)

明星大学・教育学部・教授

研究者番号：60550845

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、大学の教員養成段階でカリキュラムマネジメントができる力の基礎を育成するためのカリキュラム、指導方法や教材の開発を行うことである。

第一段階(2017～2019年度)では、「教育課程論」のカリキュラム、指導方法、テキストの開発を行った。第二段階(2020～2021年度)では、開発したカリキュラムやテキストを授業で使用して効果を探る実践研究を行った。2021年度のA大学の「教育課程論」の授業後にカリキュラムマネジメントの考え方を説明できるかを履修学生に問うたところ、「できる」又は「大体できる」との回答が96.6%に達し、開発したカリキュラムやテキストの効果が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、カリキュラムマネジメントができる力の基礎の育成を結節点として、学校の教育課程や教員養成に関する教育行政上の要請と大学の教職科目「教育課程論」の研究をつなげ、カリキュラムと指導方法、教材の開発研究を一体的に進め、教員養成段階においてカリキュラムマネジメントができる力の基礎を身に付けるための効果的なカリキュラムやテキスト等を提案できたところにある。

本研究の成果が各大学で活用されることにより、教員のカリキュラムマネジメント力の向上に資すると考える。また、本研究の成果は、現職教員の研修にも活用できる。教員養成と現職研修とが相まって、カリキュラムマネジメントの充実に貢献できる。

研究成果の概要(英文)：This study aims to develop how to teach and teaching materials in order for university students of teacher training course to obtain basic ability of the curriculum management. In first term(2017-2019),we worked on developing of "Curriculum Theory", how to teach and related textbook.

In second term(2020-2021),we conducted trial in classes using the developed curriculum and textbook in order to get their effects, and we found definite effects from the students' feedback. We have got 96.8% positive response in classes of A university.

研究分野：教育課程論、カリキュラムマネジメント

キーワード：カリキュラムマネジメント 教員養成 カリキュラム開発 教材開発 教育課程論テキスト

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 次期学習指導要領に伴うカリキュラムマネジメントの実現

平成 29 年改訂学習指導要領が目指す教育を実現するため、各学校においてカリキュラムマネジメントを推進することが求められている。カリキュラムマネジメントについては、20 年以上前から中留らによって研究が進められるとともに、教育行政においても平成 15 年の中央教育審議会答申以降その重要性が強調されてきた。中央教育審議会教育課程部会の「審議のまとめ」(平成 28 年 8 月 26 日)では、これを更に発展させ、学習指導要領の実施と一体的にカリキュラムマネジメントを推進することの必要性が強調された。

その後、平成 29 年に改訂された学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力を知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性の三つの柱に沿って具体化し育成することとされている。このため、総則を中心に学習指導要領を構造的に改善し、各教科等の意義や相互の関係を明確にして、子供の主体的・対話的で深い学びを成立させることが目指されている。各学校では、こうした方向性を踏まえ、教育目標の実現のため、計画・実施・評価・改善の過程を循環させ、学校内外の資源を最大限に活用しながら教育活動等の質を高めていくことが不可欠となる。こうしたカリキュラムマネジメントについては、次の三つの側面から充実が求められている。

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の P D C A サイクルを確立すること。

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

### (2) カリキュラムマネジメントができる力を有する教員の育成

カリキュラムマネジメントを各学校で実現するためには、管理職をはじめ全ての教員がカリキュラムマネジメントの意義を理解し、その力量を高めることが不可欠である。教員の資質能力の向上についてまとめた平成 27 年 12 月 21 日の中央教育審議会答申では、教員が「新たな課題の対応を含め、個々の教科の授業における実践力だけでなく、子供や学校・地域の実態を踏まえて、育成すべき資質能力を踏まえて教育課程をデザインして実施し、評価・改善することや、そのために必要な学校内外のリソースを活用するために地域の人々と協働することなどを含めた、一連のカリキュラム・マネジメントができる力を付けること」が求められている。教員養成段階においても、カリキュラムマネジメントの「基礎を身に付けること」の必要性が指摘され、教職課程の見直しに当たって、「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」と示された。

(注：中教審等では「カリキュラム・マネジメント」の表記が用いられているが、ここではこれまでの研究の経緯を踏まえ、「カリキュラムマネジメント」の表記を用いる。)

### (3) 先行研究の状況

教員が現職研修を通じてカリキュラムマネジメントができる力を高めることに資する研究については、これまで科学研究費補助金により進められてきている(基盤研究(c)「カリキュラムマネジメントの方法の体系化とガイドブックの開発」(研究代表者：田村知子、平成 26~28 年度)、基盤研究(c)「学校カリキュラムマネジメント推進のための地域教育行政による支援モデルの構築」(研究代表者：村川雅弘、平成 28~31 年度))。

一方、教員養成段階においてカリキュラムマネジメントの基礎を身に付けるようにするための研究は、総合的な学習の時間など教育課程の一部に見られるにとどまっている。

このため、平成 29 年改訂学習指導要領と教育職員免許法改正の動向を踏まえ、「教育課程の意義及び編成の方法」に関する科目をはじめ教員養成段階全体を視野に置いた研究を進めることは、喫緊かつ重要な課題である。

教員養成の実態をみると、中心となるべき「教育課程の意義及び編成の方法」に関する科目(通例 1~2 単位で開設)は、教授者によって重点の置き方が様々で、学習指導要領とりわけ今後の学校でのカリキュラムマネジメントの要と位置付けられる総則の取り上げ方が十分でないものが見受けられる。教員養成段階で、学校経営や教育課程についての知識や経験が少ない学生に対し、カリキュラムマネジメントについてどのような内容をどのように指導すればよいかを早急に明らかにしてカリキュラムマネジメントができる力を備えた教員を育てることが求められる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、こうした状況を踏まえ、大学の教員養成段階においてカリキュラム

マネジメントができる力の基礎を育成するためのカリキュラムと効果的な指導方法や教材を開発することである。

### 3. 研究の方法

本研究は、次のように行った。

- (1) 教員養成段階において育成すべきカリキュラムマネジメントに関する基礎的な資質・能力を明確にする。
- (2) それらの資質・能力を育成するため、「教育課程の意義及び編成の方法カリキュラム・マネジメントを含む。」に関する科目(=「教育課程論」)を中心に教員養成段階で弾力的に活用できる、効果的なカリキュラムや指導方法、教材を開発する。
- (3) 開発したカリキュラムや指導方法、教材を授業に用いて試行する。
- (4) その過程及び結果を踏まえ、教職課程全体を視野に置きつつ、カリキュラムや指導方法、教材の改善を進める。

また、本研究を効果的に進め目的を実現するため、次の三つの要件を整えることとした。

- (1) 研究と教育行政上の要請を有機的に関連付けること。
- (2) カリキュラム・指導方法・教材を一体的に研究開発すること。
- (3) カリキュラムマネジメントについてのこれまでの先行研究の成果を活用すること。

これらの要件を満たすため、本研究は次のような専門的知見を有する研究者によって行った。

研究代表者：吉富芳正 全体総括、主に教育課程論など

研究分担者：村川雅弘 主にカリキュラムマネジメントをはじめとする教員研修、指導方法、教材の開発など

田村知子 主にカリキュラムマネジメントの理論と方法、教員研修など

石塚 等 主に学習指導要領総則、評価など

倉見昇一 主に学習指導要領総則、初任・若年の教員指導など

### 4. 研究成果

#### (1) 研究の第一段階(2017~2019年度)

「教育課程論」のカリキュラム、学生の主体的・対話的で深い学びを促す指導方法、授業で用いるテキスト等の開発を進めた。

特にテキストについては、教職課程の学生が教員となり学校組織の一員としてカリキュラムマネジメントに参画するとともに学級担任としてカリキュラムマネジメントができるよう、カリキュラムマネジメントの考え方や方法と教育課程全般の知識を関係付けながら学ぶことを重視して開発した。具体的には、本テキストは全20講で構成し、「カリキュラムマネジメントができる教師」について考えることからスタートし、教育課程の意義や法令、教育課程の変遷や学習指導要領の趣旨、教育課程の編成・実施、カリキュラムの理論や評価、カリキュラムマネジメントの概念や方法を学んだ上で、再び、教師にとって身近な「学級におけるカリキュラムマネジメント」で締めくくるように内容の選択・配列を行った。また、学生が主体的に考えながら学習するための本質的な問いとそれを支える作業課題を明示するなどの工夫を加えた。カリキュラムマネジメントの考え方や方法と教育課程全般の知識を関係付けながら学ぶことができる点では、教職課程での活用に加えて、教員の現職研修資料としても活用できるテキストとなった。本テキストは、2020年度から全国の大学等で広く使用できるよう刊行した(吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、2020年)。

また、こうした研究開発の状況と成果について、日本カリキュラム学会で発表を行い、関係者への周知を図った。

#### (2) 研究の第二段階(2020~2021年度)

開発したカリキュラムやテキストなどを教育課程論の授業で実際に使用して効果等を探る実践研究を進めた。具体的な成果としては、2021年度のA大学の教育課程論の授業(2単位、全15回)の履修の前後に、カリキュラムマネジメントの考え方を説明できるかを学生に問い、履修前と履修後とを比較したところ、「できる」との回答は履修前0.9%から履修後42.4%に、「大体できる」との回答は履修前10.7%から履修後54.2%に変化し、本研究により開発したカリキュラムやテキスト等の効果を示唆する結果となった。

#### (3) 本研究の独創性と意義

本研究の特色・独創的な点は、カリキュラムマネジメントができる力の基礎の育成を結節点として、学校の教育課程と教員養成の双方に関する教育行政上の要請と大学の教職科目についての研究をつなげるとともに、カリキュラムと指導方法、教材の開発研究を一体的に進めたところにある。

その結果、全国いずれの大学においても活用することができる、教員養成段階においてカリキュラムマネジメントができる力の基礎を身に付けるための効果的なカリキュ

ラムや指導方法、教材を提案することができた。

本研究の成果が各大学で活用されることによって、採用時における教員のカリキュラムマネジメントの力量の向上に資することにつながると考える。また、本研究は、教員養成段階におけるカリキュラムマネジメントの基礎の育成に焦点を絞ったものであるが、経験の浅い初任者等若年教員をはじめ教員の現職研修にも成果を活用できる。

このように、教員養成段階のカリキュラム等の開発、活用を進めたことで、現職研修と相まって、学校におけるカリキュラムマネジメントの充実に貢献できたものとする。

なお、今後の多くの大学で本研究で開発したカリキュラムやテキストなどが活用された場合にいずれの大学でも上記のような効果が得られるか、また「教育課程論」の授業後にはカリキュラムマネジメントの考え方を説明できる学生が増えたものの教員になった際に実践に使える力となるかどうかは、今後更に研究が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 Vol.6
2. 論文標題 主体的・対話的で深い学びを実現するための副校長・教頭の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Educasphere	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 5
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメントと学校支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立教育政策研究所・令和3年度プロジェクト研究調査研究報告書『学校における教育課程編成の実証的研究報告書5 諸外国の教育課程改革の動向』	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田村知子・木原俊行・岡田和子・田中満公子・佃千春・長谷川和弘・餅木哲郎・島田希	4. 巻 第70巻
2. 論文標題 危機的状況下におけるカリキュラム・マネジメントに対する市町村教育委員会の指導・緯線 新型コロナウイルス感染症による長期臨時休業の影響を受けた大阪府における調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要『総合教育科学』	6. 最初と最後の頁 249-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32287/TD00032243	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田村知子・谷伊織・本間学	4. 巻 第70巻
2. 論文標題 授業づくりへの児童生徒の参加に関する教師の意識 テキストマイニング	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪教育大学紀要『総合教育科学』	6. 最初と最後の頁 55-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32287/TD00032230	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田希、田村知子、木原俊行、岡田和子、田中満公子、佃千春、長谷川和弘、餅木哲郎	4. 巻 第10号 (通号47)
2. 論文標題 コロナ禍におけるカリキュラムマネジメントの様相 - 教育委員会による学校への指導・助言・援助をめぐる両者の関係性に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪市立大学教育学会『教育学論集』	6. 最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富 芳正	4. 巻 第108号
2. 論文標題 新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図るカリキュラム・マネジメントー学校段階等間の接続の視点に立って育む資質・能力 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育研究岩手	6. 最初と最後の頁 pp.6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富 芳正	4. 巻 Vol.2
2. 論文標題 新しい「社会に開かれた教育課程」の創造 - 地域を重要なパートナーとして -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新教育ライブラリPremier	6. 最初と最後の頁 pp.60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富 芳正	4. 巻 通巻833号 第71巻 第1号
2. 論文標題 「社会に開かれた教育課程」の推進 - その意義と条件を考える -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小学校時報	6. 最初と最後の頁 pp.4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川 雅弘・野口 徹	4. 巻 No.28
2. 論文標題 中学校の総合的な学習の時間の実施上の課題と対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 せいかつか&そうごう(日本生活科・総合的学習教育学会編)	6. 最初と最後の頁 pp.33-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川 雅弘	4. 巻 Vol.3
2. 論文標題 大学にも求められる感染症対策と学びの保障	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新教育ライブラリ Premire	6. 最初と最後の頁 pp.80-83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石塚 等	4. 巻 通巻第575号
2. 論文標題 教育課程～家庭学習への支援方策～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 pp.22-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見 昇一	4. 巻 通巻575号
2. 論文標題 学校再開後の教育課程の編成と実施	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 pp.18-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見 昇一	4. 巻 通巻581号
2. 論文標題 小学校のカリキュラム・マネジメントをどう進めるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 pp.25-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第65巻第6号・通巻710号
2. 論文標題 「対話的な学び」の重要性と学習指導の工夫	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 106 - 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 No.984
2. 論文標題 教員のカリキュラム・マネジメント力を高める養成と研修	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 初等教育資料	6. 最初と最後の頁 86 - 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第8巻
2. 論文標題 道徳教育を核としたカリキュラム・マネジメントと授業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 74 - 77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 第11巻
2. 論文標題 総合的な学習の時間を核とした未来志向の安全防災教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校教育・実践ライブラリ	6. 最初と最後の頁 22 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子	4. 巻 2019年5月号
2. 論文標題 新学習指導要領の理念を実現するカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石塚等	4. 巻 第69巻第8号・通巻816号
2. 論文標題 社会に開かれた教育課程を実現する学校経営	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小学校時報	6. 最初と最後の頁 4 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石塚等	4. 巻 126号
2. 論文標題 新しい教育課程の実施に向けて～未来社会を展望し社会との連携・協働を進める～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 所報 (大和市教育研究所)	6. 最初と最後の頁 2 - 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 第566号
2. 論文標題 授業時数の確保における留意点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 33-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 第53巻第1号
2. 論文標題 新学習指導要領の実施に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No. 995
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 12 - 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No. 995
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.995
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.995
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.4	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 12-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.995
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.5	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 12-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.1001
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.6	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.1002
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.7	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.1003
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.8	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.1004
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.9	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.1005
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.10	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 14-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 No.1006
2. 論文標題 学習指導要領 Chronicle vol.11	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中等教育資料	6. 最初と最後の頁 8-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 -
2. 論文標題 新学習指導要領への効果的な移行に果たす校長の役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PRINCIPAL	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 -
2. 論文標題 教師自身が押さえるべき深い学びのポイント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 -
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメントの校長のリーダーシップ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リーダーズライブラリVol.10 教師の働き方とメンタル・マネジメント	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子	4. 巻 -
2. 論文標題 「学校力・教師力を向上させるカリキュラム・マネジメント」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『指導と評価』	6. 最初と最後の頁 9-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石塚等	4. 巻 -
2. 論文標題 「社会に開かれた教育課程の実現に向けて」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『千葉教育』	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石塚等	4. 巻 -
2. 論文標題 「新小学校学習指導要領に対応した教育課程の編成」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『リーダーズライブラリ』	6. 最初と最後の頁 88-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉見昇一	4. 巻 -
2. 論文標題 「現代的な諸課題に対応する教科等横断的な学習について」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中等教育資料』3月号	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 Vol.4
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメントのとらえ方と推進のポイント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 EducoEduco	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 第63巻5月号通巻749号
2. 論文標題 学校の教育課程を評価する	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉富芳正	4. 巻 Vol.33
2. 論文標題 みんなで取り組むカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 かざぐるま通信	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 6巻
2. 論文標題 高等学校のスタートカリキュラムとアクティブ・ラーニング	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 8巻
2. 論文標題 大学におけるアクティブ・ラーニングの試行	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 78-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村川雅弘	4. 巻 9巻
2. 論文標題 移行期の研究課題と研修方法の工夫・改善	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新教育課程ライブラリ	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村知子、本間学、吉富芳正、村川雅弘	4. 巻 第66巻1号
2. 論文標題 カリキュラムマネジメントの自己評価ツールの開発と検証	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岐阜大学教育学部研究報告 (人文科学)	6. 最初と最後の頁 221-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石塚等	4. 巻 第9号
2. 論文標題 教職大学院の動向と新学習指導要領への対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育デザイン研究	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 石塚等	4. 巻 1
2. 論文標題 「社会に開かれた教育課程」の実現 「総則」を学校づくりの視点から読む	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉富 芳正、村川 雅弘、田村 知子、石塚 等、倉見 昇一
2. 発表標題 カリキュラムマネジメントの基礎を育成するための教員養成段階のカリキュラム等の開発
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第31回琉球大学web大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉富 芳正、村川 雅弘、田村 知子、石塚 等、倉見 昇一
2. 発表標題 カリキュラムマネジメントの基礎を育成するための教員養成段階のカリキュラム等の開発
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第31回琉球大学web大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村知子
2. 発表標題 カリキュラムマネジメント再考
3. 学会等名 九州教育経営学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉富芳正、村川雅弘、田村知子、石塚等、倉見昇一
2. 発表標題 カリキュラムマネジメントの基礎を育成するための教員養成段階のカリキュラム等の開発
3. 学会等名 日本カリキュラム学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 村川雅弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 196
3. 書名 子供と教師の未来を拓く総合戦略55	

1. 著者名 吉富 芳正、村川 雅弘、田村 知子、石塚 等、倉見 昇一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 220
3. 書名 これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント	

1. 著者名 村川 雅弘、吉富 芳正、田村 知子、泰山 裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 222
3. 書名 教育委員会・学校管理職のためのカリキュラム・マネジメント実現への戦略と実践	

1. 著者名 村川 雅弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 162
3. 書名 withコロナ時代の新しい学校づくり 危機から学びを生み出す	

1. 著者名 石塚 等	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 1839
3. 書名 最新 教育課題解説ハンドブック	

1. 著者名 吉富芳正	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 全270頁（担当部分：pp.28-30, pp.31-33）
3. 書名 教育の最新事情がよくわかる本2020（担当部分：「社会に開かれた教育課程ってどんな姿なの？」「育成をめざす資質・能力ってどんな力なの？」）	

1. 著者名 村川雅弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 全402頁（担当部分：pp.50-57）
3. 書名 現代カリキュラム研究の動向と展望（担当部分：「総合的な学習とカリキュラ ム」）	

1. 著者名 田村知子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 全205頁 (担当部分: pp.125-145)
3. 書名 若手教師を育てるマネジメント (担当部分: 第6章 若手を育てる校内体制)	

1. 著者名 吉富芳正	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明星大学出版部	5. 総ページ数 59
3. 書名 「学校教育の質の向上と教育課程」「学校における教育課程の編成と実施」『現代教育課程入門』	

1. 著者名 田村知子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 14
3. 書名 「第9講カリキュラムマネジメント」篠原清昭監修『学校管理職養成講座 スクールリーダー育成のための12講』	

1. 著者名 田村知子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 14
3. 書名 「第6章 総合的な学習の時間の成果と課題」根津朋実編著『教育課程 (MINERVAはじめて学ぶ教職10)』	

1. 著者名 田村知子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 「第3章 教育課程行政からカリキュラム・マネジメントへ」金馬国晴編著『カリキュラム・マネジメントと教育課程』	5. 総ページ数 17
3. 書名 学文社	

1. 著者名 吉富芳正	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 217
3. 書名 次代を創る「資質・能力」を育む学校づくり 1『社会に開かれた教育課程』と新しい学校づくり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村川 雅弘 (MURAKAWA MASAHIRO) (50167681)	甲南女子大学・人間科学部・教授  (34507)	
研究分担者	田村 知子 (TAMURA TOMOKO) (90435107)	大阪教育大学・連合教職実践研究科・教授  (14403)	
研究分担者	石塚 等 (ISHIZUKA HITOSHI) (90794214)	横浜国立大学・大学院教育学研究科・教授  (12701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	倉見 昇一  (KURAMI SHOUICHI)  (10771462)	兵庫教育大学・学校教育研究科・教授     (14503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関